

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 21 日

所属	商経学部	職名	教授	氏 名	奥寺 葵
研究課題	「働き方改革」にみる労働観と人的資源戦略の変遷				
研究キーワード	女性労働、WLB	当年度計画に対する達成度	1.目標を超える研究の進展・成果を達成した		
関連するSDGs項目	8. 働きがいも経済成長も	5. ジェンダー平等を実現しよう	16. 平和と公正をすべての人に	3. すべての人に健康と福祉を	
1. 研究成果の概要 本研究は、現代日本における女性の社会進出とワーク・ライフ・バランス（WLB）政策との関係に着目し、制度の根底にある労働観およびジェンダー規範を明らかにすることを目的とした。とりわけ、WLBを支えるとされる政策や言説において、性別役割分業的な発想がいかに持続・再生産されているかを分析対象とした。 日本の WLB 政策およびそれをめぐる言説は、形式的には男女平等を志向しているものの、その多くが「女性が家庭責任を果たしながら働き続けられる環境整備」に主眼を置いており、結果的に性別役割分業の枠組みを前提とした構造となっていることを明らかにした。また、過去の WLB 論や政府施策は、「女性支援」を中心とした構成がなされており、男性の労働観の変容や家庭責任の平等な分担には十分に踏み込んでいない。 このように、WLB に関する政策や社会的言説が、性別役割分業を超える労働観の構築には至っていないという点が本研究の主要な発見である。 2. 著書・論文・学会発表等 （できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載） 【論文（査読あり）】 なし 【著書・論文（査読なし）】 ・奥寺葵（2025）「ワーク・ライフ・バランスの労働観－女性の『社会進出』の視点から－」『国府台経済研究』第 34 巻、千葉商科大学経済研究所 【学会発表等】 なし 3. 主な経費 2024 年度の研究経費は、主に資料収集を目的として使用した。具体的には、WLB 政策に関する政府刊行物や関連書籍の購入、ならびに戦後日本の女性労働に関する歴史資料（証言集、報道アーカイブ等）の取得に充当した。また、遠方の資料館・図書館での調査にも一部使用した。 4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等） なし (本文は 2 ページ以内にまとめること)					